

感染症情報 4月10日～16日

府下小児科200療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1277例(堺市	64例)
②溶連菌感染症	383例(堺市	30例)
③手足口病	128例(堺市	11例)
④おたふくかぜ	124例(堺市	9例)
⑤突発性発疹	99例(堺市	3例)

府下インフルエンザ定点307医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 602例(堺市 40例)

が報告された。

感染症報告数は前週より17.6%増の2,237件であった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、溶連菌感染症、手足口病、おたふくかぜ、突発性発疹の順であった。

1位の感染性胃腸炎は府下で前週比26%増、堺市では前週比23%増であった。2位の溶連菌感染症は府下で前週比9%増、堺市で15%増であった。手足口病が府下で前週比86%増、堺市では前週3例→今回11例に増えている。今後の動向が注目される。おたふくかぜが府下では前週比5%減、堺市で前週6例→今回9例であった。

インフルエンザは府下では前週比5%減の602例が報告され、堺市では前週と今回同数例であった。報告定点あたりは前週2.1→今回2.0となっている。

マイコプラズマ肺炎の府下の報告数は前週2例→今回6例であった。

風疹の報告はなかったが、麻疹の報告が2例あった。